

外部講師による Japanology 特別講義

杉山純子 (王立プノンペン大学)

suiigyama6@gmail.com

【要約】

王立プノンペン大学外国語学部日本学科では4年生を対象に選択必修科目として日本学研究（以下 Japanology とする）が開講されている。Japanology 特別講義は外部から講師を招き、講師による講義、ディスカッション、発表という手順で進行する。外部講師による特別講義は背景知識の増強、考察力の育成、および日本語力の向上という3つの面で有意義なものと思われる。学生達は特別講義を新しい知識や情報の確保、自国についての見直しと深い考察、講師の自然な日本語という3点で評価し、前向きに受け止めている。講師も学生との交流の機会を貴重な体験と考えており、相互交流という面でも意味のあるものではないかと思われる。

キーワード：Japanology、特別講義、外部講師、背景知識、考察力、日本語力

1. はじめに

王立プノンペン大学 (Royal University of Phnom Penh、以下 RUPP と略す) 外国語学部日本語学科では2010-11年度2学期に4年生を対象とする Japanology 特別講義が開講され、外部から日本人講師を招き、2012-13年度2学期まで3年間継続実施されている。本稿では Japanology 特別講義の概要を報告するとともに、学生の反応を中心に実施結果を振り返り、その成果と今後の課題について述べたい。

2. 背景

RUPP 日本語学科は2005年に開設された。2011年以降、カンボジアへの日系企業の進出が増え、卒業生の就職率も高いため、入学希望者も増加している。1年生は主として一般教養科目、2年生、3年生は日本語関連科目、4年生は専門科目を履修する。現在、4年生は教育専攻とビジネス専攻の2分野に分かれている。一部共通科目があるが、ほとんどは各専攻独自の専門科目が設置されている。

2010-2011年度の2学期(2011年2月～6月)に教育専攻の4年生のための選択科目として、Japanology (日本学研究)が開講されたが、Japanology 特別講義は両専攻の学生にとって有意義なものであるという学科長の意向により、ビジネス専攻の専門科目「企業研修」とのコラボレーションにより、ビジネス専攻の学生も特別講義を受講することになった。

3. Japanology の目標

RUPP の Japanology が目指すものは背景知識の増強、考察力の育成、および日本語力の向上の3点である。Japanology は様々な領域を包括する分野である。日本に関わることであればテーマは何でもよいという自由度の高さが魅力であり、背景知識の増強はもとより、単なる講義の形を超えて、活発な議論や考察の場にもできる。

Japanology 特別講義では日本およびカンボジアについての学生が持つ潜在知識を活性化した上で、講義

や読解などにより学生に欠けている背景知識を補っていくことを第一の目標とする。さらに、その背景知識をもとにテーマを掘り起こし、議論を通してカンボジアと日本を比較対照し、考察力を深めることを第二の目標とする。対象学生は4年生ではあるが、上級日本語力を有しているとは言えず、日本語能力試験N2合格者もごくわずかである。日本学研究で読解、グループ・ディスカッション、発表など複数の学習活動を実施することにより、上級日本語力を養成することが第三の目標である。

ただし、ひとつのテキストやひとりの講師に依存した形になると、自由度が低くなり、視野も広がらない。また、背景知識も偏ったものになるおそれがある。そこで、様々な分野で活躍する外部の複数の在留邦人および滞日経験の長いカンボジア人を講師として教室に招くという形で Japanology 特別講義を実施することに決めた。

4. 外部講師

カンボジアには既述したように日系企業の進出もめざましく、在留邦人の数が増えている。また、NGOの職員やNPOのボランティアなど、カンボジアに親近感を抱き、カンボジアの人々のために何かしたいと考えている日本人が多い。(外務省の資料では2012年10月現在、在留届を提出した在留邦人は1,4799人)。

日本語学科には外部講師を招待する予算がなく、外部講師と言っても、無報酬のボランティアである。そのような条件にもかかわらず、依頼した方々は快く講師を引き受けてくださった。

講師集めに大切なものは人脈である。個人の人脈は限られているが、どの地域にも人脈のエキスパートがいる。そのようなエキスパートの力を借りることが要ではないかと思われる。特別講義の外部講師はRUPP教員のみならず、大使館員、ジャーナリストなどの紹介で来てくださった人々である。表1～3は2011年～2013年の特別講義のテーマと外部講師を表にまとめたものである。学生の達成課題は講師によって異なる。講師から出されたトピックについてのグループ・ディスカッション(GD)が多いが、歌の練習・実演、アート・デザイン作成作業もある。

表1 2010-11年度2学期 Japanology 特別講義 (2011年2月～6月)

| | 講義内容 | 課題 | 講師 | 所属/職業 |
|------|-------------------|-------------|-------|------------------------------|
| 第1回 | 日本人の価値観 | GD | 町田達也 | 在カンボジア日本国大使館 |
| 第2回 | 日本はなぜカンボジアを支援するのか | GD | 町田達也 | 在カンボジア日本国大使館 |
| 第3回 | 遺跡修復が繋ぐカンボジアと日本 | GD | 吉川舞 | バイヨン・インフォメーション・センター |
| 第4回 | カンボジアの伝統医療 | GD | 高田忠典 | カンボジア伝統医療機構 |
| 第5回 | 日本の歌：愛は勝つ | 歌の練習・ 実演 | 久保田光広 | Rainbow Progress (セミプロ歌手) |
| 第6回 | 企業と人材 | GD | 水越健晴 | Forval Cambodia |
| 第7回 | 東日本大震災、被災地をたずねて | GD | 木村文 | フリーランス・ジャーナリスト |
| 第8回 | 通訳・翻訳者の心得 | GD | 山崎幸恵 | カンボジア情報サービス |
| 第9回 | 東京学 | GD | 町田達也 | 在カンボジア日本国大使館 |
| 第10回 | 図書館活動と絵本の可能性 | GD | 山本英里 | シャンティ国際ボランティア会 |

表2 2011-12年度2学期 Japanology 特別講義 (2012年2月～6月)

| | 講義内容 | 課題 | 講師 | 所属/職業 |
|-----|----------------------|----|-------------------|--------------------------------------|
| 第1回 | カンボジアと日本の教育比較 | GD | 大野彰子 | カンボジア教育青年スポーツ省 (JICA) |
| 第2回 | 日系企業での働き方 | GD | 大野晴生 | カンボジア日本人材開発センター |
| 第3回 | 遺跡修復が繋ぐカンボジアと日本 | GD | 吉川舞 | バイヨン・インフォメーション・センター |
| 第4回 | カンボジアに進出する日本企業 | GD | 中野広士 | 三井物産プノンペン事務所 |
| 第5回 | 沖縄とカンボジア | GD | 木村文 | フリーランス・ジャーナリスト |
| 第6回 | 日本での留学経験から | GD | チュオン・ルム・リア ツセイ | 王立プノンペン大学教育研究所 (リアツセイ氏は日本で博士号を取得) |
| 第7回 | カンボジア人、日本人がよりよく働くために | GD | 福原明 | 協和製函 (福原氏は日本国籍を持つカンボジア人) |

表3 特別講義 2012-13年度2学期 Japanology 特別講義 (2013年2月～6月)

| | 講義内容 | 課題 | 講師 | 所属/職業 |
|-----|-------------------------------------|---------------|-------|---------------------------|
| 第1回 | アートデザインの可能性 | ロゴ作成 | 中村英誉 | HIDEHOMARE Ltd. |
| 第2回 | 日本のケンチク | 建築デザイン 画作成 | 百瀬純哉 | 在カンボジア日本国大使館 |
| 第3回 | 南条英樹の歌が教えてくれること | 歌の練習・ 実演 | 久保田光広 | Rainbow Progress (セミプロ歌手) |
| 第4回 | 日本式サービス業から考えるこれから社会に出るために知っておいて得なこと | GD | 宮内亮 | Cross Town Café Project |
| 第5回 | 遺跡修復が繋ぐカンボジアと日本 | GD | 吉川舞 | バイヨン・インフォメーション・センター |
| 第6回 | 雷龍の国ブータン | GD | 杉山純子 | 王立プノンペン大学外国語学部 |
| 第7回 | カンボジア特別法廷/沖縄とカンボジア | GD | 木村文 | フリーランス・ジャーナリスト |

5. Japanology 特別講義

5-1. Japanology の授業構成

Japanology の授業は16～17週 (1週当たり2時間) あるが、そのうち7～10週を教育専攻・ビジネス専攻合同の外部講師による特別講義、残りを教育専攻のみのクラス授業とした。なお、クラス授業では日本人の異文化体験や外国人の日本体験をテーマにした読み物を読み、それについてグループ・ディスカッションをしたり、特別講義のふりかえりを行ったりした。

5-2. 特別講義の流れ

特別講義の流れは図1の通りである。

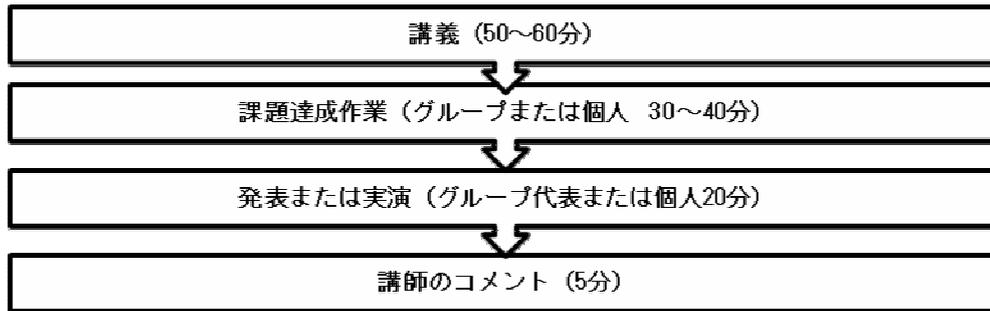


図1 特別講義の流れ

ほとんどの講師が配布資料を用意したり、スライドを見せたりしながら講義を行った。視覚効果で理解を助けるため、学生達も資料やスライドを歓迎しているようだった。グループ・ディスカッションの際に学生達の質問にクメール語で答えるカンボジア人アシスタントを連れてきた講師もいて、講師側の正しく理解してもらいたいという熱意が感じられた。

5-3. ディスカッション課題と結果

講義が終わった後、講師から1題の達成課題が出る。グループ・ディスカッションが行われる場合は、ディスカッション後にそれぞれのグループ代表者が話し合いの結果をまとめて発表し、それに対して講師がコメントをするという手順で特別講義は進行する。以下は講師から出たディスカッション課題と学生達が話し合った結果の例である。

a. カンボジアの学校をよくするためにはどうしたらいいか。(2012 大野彰子)

- ①教師の質を高めなければならない。
- ②教師の給料が非常に少ないので、給料を上げたほうがいい。
- ③教師が生徒からワイロを取る習慣をなくすべきだ。(ワイロの例：試験の前に生徒からお金を取って自宅で試験問題を教えたり、試験問題を売ったりする。)
- ④親が教育の大切さを理解し、子供を学校へ行かせるように、親にきちんと説明したほうがいい。
- ⑤教師が説明する授業だけではなく、いろいろな教室活動をして、子供が勉強したくなるような楽しい雰囲気にしたほうがいい。
- ⑥教材や教具が不足しているので、それを増やしてほしい。
- ⑦日本と同じように、音楽、図工、体育の授業も入れたほうがいい。
- ⑧日本と同じように、授業の後のクラブ活動があったらもっと楽しくなるだろう。
- ⑨子供が本に触れる機会を増やすために、図書館を作ってほしい。

b. カンボジア人の若者はどうして短期間で日系企業を辞めるのか。(2012 大野晴生)

- ①会社の規則がとても厳しい。
- ②仕事が多くて、大変だ。
- ③給料が安い。
- ④サービス残業がある。
- ⑤日本のスタイルの働き方を要求される。

- ⑥日本人と考え方・習慣・文化が違う。
- ⑦会社の周辺の環境がよくない。(辺鄙などところにあるなど)
- ⑧辞めても、他の仕事が見つかる。
- ⑨カンボジア人は仕事人間ではない。

c. カンボジアの遺跡を守るために自分達ができることは何か。(2011, 2012, 2013 吉川舞)

- ①自分が遺跡のことをもっと学ぶ。
- ②他の人々に遺跡のすばらしさをもっと伝える。
- ③遺跡を見学するとき、規則を守る。
 - ・ゴミを捨てない。
 - ・落書きをしない。
 - ・遺跡を傷つけない。
 - ・遺跡にさわらない。
- ④遺跡を修復する人々を応援する。
- ⑤遺跡を守るために寄付をする。
- ⑥遺跡を守る活動に参加する。
- ⑦FacebookなどのSNSで世界中の人々に遺跡のことを知らせる。

d. 平和の大切さを教えるために、小学校でどんなことをしたらよいか。(2013 木村)

- ①カンボジアの歴史(ポルポト時代)を教える。
- ②トゥールスレン博物館(虐殺博物館)で研修する。
- ③子供達をキリングフィールドへ連れて行く。
- ④お年寄りを招いて、ポルポト時代の体験を語ってもらう。
- ⑤小学校でもこのような特別授業を行う。
- ⑥平和な時代と内戦時代の写真を両方見せる。
- ⑦絵や紙芝居で平和の大切さを伝える。

6. 成果

6-1. 学生の反応：外部講師が特別講義をする理由

「貴重な時間を割いて講師を引き受けてくれたのはなぜか、講師の考えていることを想像してみてください」という質問に対する学生グループ(2012-13年度6グループ)からの自由回答には大きく分けて4つの要素が見られる。一つ目は「日本語学習者への応援」である。学生には「日本人は日本語学習者を応援したいという気持ちがある」という信念が見られる。二つ目は「人材育成」である。学生は人材育成について単に学歴や資格が重要なのではなく、日本人は考え方を重視するとの認識を持っているようである。三つ目は「日本とカンボジアの友好関係促進」である。学生は日本人が両国の良好な関係を維持し、経済面だけでなく心のつながりも持ちたがっていると考えている。四つ目は講師の「伝えたい気持ち」である。学生は講義を通じて、講師の「何かを伝えたい」「何かを教えたい」という熱意を受けとめたのではないだろうか。

a. 日本語学習者を応援したい

- ・まだ数少ないカンボジア人日本語学習者を応援したいから。

- ・カンボジアに日本語学習者がいることをうれしく思っているから。
- b. 人材を育成したい
- ・カンボジア人の人材を育成したいと思っているから。
 - ・経済的援助ばかりでなくカンボジア人自身に考えてほしいと思っているから。
 - ・日本人の考え方について教えたいから。
 - ・学生に新しい考え方を持ってほしいから。
- c. 日本とカンボジアの友好関係を促進したい
- ・日本とカンボジアの関係をさらに強くしたいから。
 - ・日本人とカンボジア人の心をつなぐため。
- d. 伝えたいことがある
- ・日本の文化や社会的な知識を教えたいから。
 - ・自分の経験したことを伝えたいから。
 - ・自分のしていることを伝えたいから。

6-2. 学生の反応：特別講義の良い点

学生が特別講義の良い点として挙げたのは以下の8点である。

- ・今まで知らなかった新しい知識や情報が得られた。
- ・スライドや映像があったので、それが理解の助けになった。
- ・カンボジアについてもう一度見直すことができた。
- ・これまでに考えたことのないことを深く考えることができた。
- ・日本語教師ではない日本人と接することができた。
- ・普段の日本語学科の授業ではできないことが体験できた。
- ・講師が熱心に話してくれたので好感が持てた。

上記の回答から、学生達が特別講義で、新しい知識や情報の確保、自国についての見直しと深い考察、講師の自然な日本語という Japanology が掲げた3つの目標を高評価していることが分かった。その他、学生からは以下のコメントがあった。

- ・私たちのために講義に来てくださった講師に感謝している。
- ・講義は自分達の将来のために役立つ。
- ・日本とカンボジアについて考える機会が持てた。
- ・楽しかった。
- ・後輩のために今後も特別講義を続けて行ってほしい。

以上の結果から、学生達の Japanology 特別講義に対する満足感がうかがえ、3年間の特別講義の実施には成果があったものと考えられる。

6-3. 外部講師の反応

外部講師の方々からは以下のコメントをいただいた。

- ・普段あまり接することのないカンボジア人学生と交流する良い機会となった。
- ・講義は難しいかもしれないと思ったが、よく理解してくれたので、感心した。

- ・真剣にディスカッションし、いろいろな意見を発表してくれたので、感心した。
- ・予想しなかったような意見も出て、大変参考になった。
- ・カンボジア人の若者の考え方がわかって、よかった。
- ・学生はシャイながらも、しっかり日本語で話し、積極性が感じられた。
- ・学生に接し、将来のカンボジアの未来は明るいと感じた。

以上のコメントから、講師側の学生への評価と将来への期待が見られる。また、講師側にも得るものがあったようで、外部の日本人と学生との相互交流という面でも意義があったのではないと思われる。

7. おわりに

外部講師による Japanology 特別講義の実施は背景知識増強、考察力育成、および日本語力向上の三点で有意義なものと考えられる。今後も毎年継続して開講されることが望まれる。

外部講師確保のためには日ごろから専門分野を持った在留邦人の情報を収集しておくべきである。また、学生が講義後も外部講師となんらかの形で接触ができるような方策も考えていきたい。

参考資料（特別講義講師に関係のある URL）（参照日）

- カンボジア人情浮草日記<<http://ayakimura.cocolog-nifty.com>>（2012年2月26日）
- 今日のバイヨン～JSA 遺跡修復現場から<<http://www.jst-cambodia.net/baiyon>>（2011年6月7日）
- 協和製函<<http://www.kyowaseikan.co.jp>>（2012年3月9日）
- 在カンボジア日本大使館資料「二国間関係」
<<http://www.kh.emb-japan.go.jp/political/nikokukan/nikokukan-gaikyo.doc>>（2011年2月11日）
- シャンティ国際ボランティア会<<http://sva.or.jp/cambodia>>（2011年4月23日）
- 伝統医療でGO！<<http://blog.canpan.info/acupuncture>>（2011年5月18日）
- Forval Cambodia <<http://www.forval-cambodia.com>>（2011年6月3日）
- Hidehomare(Blog)<<http://hidehomare.tumblr.com>>（2013年3月28日）